

ご存じですか？ 参議院調査室の活動

－立法と調査等における統計に関連する記事の紹介を中心に－

奥積 雅彦（国立国会図書館支部総務省統計図書館長）

参議院調査室は、委員会等における議案審査や国政調査活動を中心に、広く議員活動全般を調査面で補佐するために置かれた組織で、常任委員会調査室、特別調査室及び企画調整室からなっています。調査室では、国会審議に資するため「立法と調査」などの参考資料を参議院議員に提供しています。¹

そのなかには、統計に関連する記事もあります。今回は、その主な記事の概要を紹介します。

1 「立法と調査」について

1-1 「立法と調査」とは¹

「立法と調査」は、参議院調査室が企画・編集し、参議院議員向けに発行している調査情報誌で、主要な政策課題や予算・税制の解説、国会に提出された法律案の紹介、通常国会の論議などについて特集を組むほか、国会ならではの情報や資料を駆使した調査・研究の報告・論文を掲載しています。

1-2 「立法と調査」における統計に関連する記事²

「立法と調査」における統計に関連する記事としては、例えば次のようなものがあります。

◆405号 [平成30年10月1日] 特集：人工知能（AI）

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/20181001.html

・《寄稿》人工知能技術を俯瞰する（PDF：1,716KB）

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2018pdf/20181001003.pdf

「人工知能とは何か」を様々な視点から述べ、多彩な意味で使われる「人工知能」がどのような文脈、どのような意味で使われているのかを理解するための一助となることを目指し、また、現在の人工知能がどのようなものと捉えるべきかを述べるとともに、今後我が国で人工知能がどのように扱われるべきかの私見を述べたもの。

・AI時代を担う人材の育成（PDF：651KB）

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2018pdf/20181001046.pdf

AIのほかビッグデータやIoT等に関して先端的なIT技術を担う先端IT人材を中心に、AI関連人材の育成に関する政府の目標・施策を紹介するとともに、人材育成の課題について若干の考察をしたもの。

・AI時代における産業用データ利活用の促進ーコネクテッド・インダストリーの成否ー （PDF：2,318KB）

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2018pdf/20181001056.pdf

AI時代における産業用データ利活用の促進に向けた政府の取組や主な国会論議を紹介するとともに、我が国の産業競争力確保に向けた課題について論じたもの。

…など

¹ 参議院HP「調査室作成資料」

² 参議院HP「調査室作成資料」の「立法と調査」バックナンバーリスト

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/index.html

◆403号 [平成30年8月1日] 特集：第196回国会の論議の焦点(3)

・統計改革と統計法等の改正 ―統計の精度向上・データ利活用等の推進― (PDF：1,583KB)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2018pdf/20180801003.pdf

平成19年に統計法が全部改正されて以来の統計制度の見直しを内容とする統計法等の改正案の提出の背景・経緯及び内容の概要を整理し、国会における主な議論を紹介したものを。

◆370号 [平成27年11月2日]

(法律のラウンジ) 国勢調査について (PDF：196KB)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2015pdf/20151102104.pdf

平成27年に実施された国勢調査に関連して、国勢調査の結果の利用が衆議院議員選挙区画定審議会設置法で、法定されているものもあることを紹介し、公職選挙法の一部を改正する法律(平成27年法律第60号)の立案に携わった参議院法制局担当者のコラム。

◆267号 [平成19年4月20日] 特集：第166回国会の法律案等の紹介(3)

・国民の財産であり、社会の情報基盤としての統計 ―統計法案― (PDF：36KB)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2007pdf/20070420009.pdf

我が国の統計の基本法ともいべき統計法(昭和22年法律第18号)の制定から60年が経過して、この間の社会経済情勢の変化に十分対応していないとの批判が高まり、その全部改正を内容とする統計法案について、その提出に至る経緯や法案の概要、課題等についてまとめたもの。

◆260号 [平成18年10月6日]

・(自由論文等) 歴史的に見た日本の人口と家族 (PDF：143KB)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2006pdf/20061006090.pdf

現在の日本が直面している少子化・人口減少の性質を把握するための一助として、歴史的に見た日本の人口と家族像、とりわけ江戸時代以降の変遷について述べるとともに、今後の日本の家族像について若干の考察を加えたもの。

2 「経済のプリズム」について

2-1 「経済のプリズム」とは？³

「経済のプリズム」は、参議院調査室が企画・編集し、参議院議員向けに発行している調査情報誌です。特に参議院の経済関係委員会・調査会委員への情報提供機能強化を図るため、同関係調査室による共通の参考資料としてとりまとめたもので、複雑な経済社会情勢の中から、政策課題を抽出し、その対応策等を探るといった観点から、景気動向や金融、財政などをはじめ、幅広い経済関係の情報を機動的に提供しています。

2-2 「経済のプリズム」における統計に関連する記事⁴

「経済のプリズム」における統計に関連する記事としては、例えば次のようなものがあります。

◆第169号 [平成30年6月] 論文「消費者物価指数半世紀の推移とその課題」 (PDF：781KB)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/h30pdf/201816902.pdf

消費者物価指数の次回の基準改定は、2020年の予定であり、新たな元号のもとでの初めての改定となることから、昭和、平成期の消費者物価指数半世紀を振り返り、今後の課題を探ることとしたもの。なお、補論として、最近の国会での議論を参考に、物価安定目標としての消費者物価指数の役割について言及したものを。

◆第167号 [平成30年3月] 論文「「2025年問題」講演会報告書」 (PDF：480KB)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/h30pdf/201816702.pdf

1947～49年生まれ「団塊の世代」が75歳(後期高齢者)を迎える2025年には、医療・介護費を中心に

³ 参議院HP「調査室作成資料」

⁴ 参議院HP「調査室作成資料」の「経済のプリズム」バックナンバーリスト

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/index.html

社会保障費が一段と増加すると見込まれているところ。参議院調査情報担当室が2017年1月から5月にかけて5回にわたり開催した「2025年問題」講演会において取り上げた①医療・介護制度の在り方、②目指すべき働き方改革の姿、③高齢化・人口減少下での経済成長の持続性、④超高齢社会に対応できる地域のかたち、⑤持続可能な財政・社会保障システムに向けての各テーマにおける問題の所在と講演会の概要についてとりまとめたもの。

◆第164号 [平成30年1月] コラム「和歌山県・岩出市 地方にあって人口増加が続く街」

(PDF : 615KB)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/h30pdf/201816404.pdf

我が国では、現在、地方の中小の自治体の多くは、人口減少に加え、団地・ニュータウンの高齢化、シャッター通り、離島や山間部での過疎化など様々な問題を抱えているところ。一方で、地方にあって人口が増加している自治体の例として、和歌山県岩出市を取り上げ、人口増加の背景について考察したもの。

3 おわりに

インターネットで公開されている政策課題に係る参議院調査室等の情報で、統計に関連するものにもアンテナを張っておくことにより、統計図書館の行うレファレンス業務の質と量の充実を図り、もって利用者みなさまへのサービスの向上に努めてまいりたいと思います。